

---

# 宇宙党

三代渡吉

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

宇宙党

### 【著者名】

三代渡吉

### 【ISBN】

978-4-908250-61-5

### 【あらすじ】

突然宇宙から宇宙人が現れて、日本に上陸した。彼等は宇宙党を組んで、国会に乗り込んでくる。

国会で、新たな法案を成立させようと、与党と野党が激しく戦っていた。

でも、内容はただお互いを野次るだけで、一向にお話が進まない。そんな時……彼等はやってきた。

日本語になんとか訳されたその彼の名前を呼ぶために、議長は冷や汗をダラダラ流しながら、それを読みあげる。

「で、では、宇宙党……ば、パプウーリヤペノツ……じゃなくてペノチユーノリさん」

「バキューーーン。銃弾が放たれて、国会は騒然となつた。

議長はすぐに係員によつて片付けられてしまい、次の議長が壇上にあがつてくる。

先程の議長より若そつた外見にくわえ、ちょっと荒々しい外見に見える。

「失礼。改めて、パッブツ……」

「バキューーンバキューーーン！！ 一人目が殺されてしまつた。また議会は騒がしくなつた。

今度は手際よく一代目の議長が片付けられて、次の人に間が入つてくる。今度はとても冷静そうな老人だ。

「それでは改めまして。パプウーリヤ＝ペノチユーリノンさん。どうぞ」

ようやくまともに自分の名前で呼ばれ、パプウさん（略称）は嬉々として立ち上がつた。

「…………」

そして、今回の議題に対する自分の意見を、スラスラスラスラと、とても堂々と訴えた。

彼の眼差しはとても真剣で、政治に対する意欲が他の中年政治家よりよく見られた。

すべてを説明し終ると、周りからは絶大な拍手があちこちひびきから沸いた。パプウさんは照れながら、自分の席へと戻る。

賞賛される彼を、少し遠めに見ていた議員一人は、不服そうに拍手しながら話し合つ。

「なあ、中杉くん

「なんですか？」

「彼は何といつてこんなに賞賛されているんだ」

「わかるわけないでしょ。向こうは我々の言葉を理解しているようですが、こちらは全く訳せないんですから」

「もう一度聞くぞ、何でこんなに皆から盛大に拍手されているのだね」

「撃たれたいのならどうぞ反論してください」

彼はそう忠告されて、冷や汗は垂らしながらムスッと黙つた。相変わらずパプウさんは嬉しそうだつた。

数時間後、彼の案を取り入れた（らしい）法案は通り、すぐに実行されることになった。

最初はいきなり実行された案だったために戸惑いもあつたが、パプウさんの尽力によつて、予想以上にそれは浸透していった。

すると、今までどん底にあつた日本経済はうなぎ登りにあがつていき、不景気で嘆いていた日本が、まるで枯れた花に水を与えられたように元気になつたではないか。

それがわかつた途端、日本市民達は、宇宙党を絶賛した。右も左も宇宙党万歳の旗で埋め尽くされていた。

旗から見ていた中杉は、今度は先輩議員に逆に聞いてみた。

「一体、何をやってこんなに褒められているんですか？」

「それがね、サッパリわからないんだよ

「は？」

「わからないのに景気が良くなつていて。不思議な話だ、日本はま

たバブルに突入してしまったんじゃないかといふくらい発展してゐる

「…………」

「何をやつたか知らないが、一秒単位でとんでもない借金を生み出していた時代とは、もう訳が違うんだ。国民も納得してしまった」

「俺達つてなんなんでしょうね」

そんな疑問を持ちながら、宇宙人の闊歩を彼等はじつと眺めていた。よく見たら、住民も徐々に支配されていた。

## 与党・自主党本部

「のままでは、宇宙人によることが政権を許してしまうことになる。このまま宇宙人政治参加法が成立すれば、日本は終わりだ。現在の首相、複島さんが、頭を抱えて、もう薄くなつた髪から露出した頭皮を、地面に擦り付けていた。

傍から見て阿呆としか思えないことをしないと、この打開策が思いつかないと勘違いするほど、彼は追い詰められていた。

そんな時、トントンという一つのノックがした。

「複島さん」

いきなり入ってきたのは、主社党の党首、大佐和だった。

「大佐和さんじやありませんか」

「この度はどんでもないことになります」

「はい……私は一体どうすれば良いのか、わからなくなりました」

「…………」

二人は、一緒に机に頭皮をグリグリと擦り付けて、知恵を絞ろうとしていた。

宇宙人には、否、他人にも理解できないような行動だった。

「こうなつたら」

「どうしました、複島さん」

複島さんは、がつちりと大佐和さんの手を掴んで、こういった。  
「大連立しましょう」

政治闘争は、今ここから始まつたのである。

(後書き)

スマブラ予約受け取りまでの暇つぶし（不眠）のため、かなり手抜き気味に書いた作品。それでも一応何が言いたいかはわかるようにならねば。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5617d/>

---

宇宙党

2010年11月4日13時33分発行